

市政トピックス

中学校給食の実施方式を、一カ所で調理する「センター方式」に決定

☎ 教育総務室 ☎ 63-7849

市では、中学校給食の実施に向け、調査事業者と「名張市中学校給食実施に係る民間活力等導入可能性調査」を進めています。このうち、中学校給食の実施方式は、「自校調理方式」と「センター方式」の2つの方式について、現地調査、工事費用などのコスト面、学校運営への影響、持続可能性などについて検討し、一カ所で調理する「センター方式」に決定しました。

建設候補地については、2つの候補地から、規模や位置、災害時の懸念点、周辺環境への影響などから検討し、「青蓮寺(伊賀南部ストックヤード下に位置するテニスコートとゲートボール場)」を第一候補地として決定しました。



今後の予定

引き続き、最終報告に向けて2,500食の食数規模での民間活力の導入可能性調査を進めます。令和6年1月に最終報告書を作成、事業手法を決定、その後、基本計画を策定します。

市政トピックス

都市振興税延長の令和5年度までは、全職種で給料額を削減中です

☎ 人事研修室 ☎ 63-7315

一般職の給料額は、部長級5%、室長級4%、課長補佐級1%を削減。「都市振興税」を延長する令和5年度までは、医療職を含めた全職種を削減対象とし、削減率を上乗せ(令和3年度は2%、4年度は1%、5年度は2%)しています。また、管理職手当、市長・副市長の期末手当、議員報酬も削減を継続中です。

◆ 職員の平均給料月額、平均給与月額、平均年齢の状況

職種	平均給料月額	平均給与月額	平均年齢
一般行政職	309,559円	390,463円	41.1歳
技能労務職	274,525円	296,467円	46.1歳

※給料額は、2~7%の減額措置をしています。給与は、給料に諸手当(期末勤働手当を除く)を加えたもの(管理職手当は10%~20%の減額措置あり)

◎給料額などは令和5年4月1日現在。職員給料や諸手当の状況、職員数の増減、特別職の給料や報酬などの詳しい状況は、市HP「人事行政の運営等の状況」に掲載しています。



◆ 特別職や市議会議長の報酬などの状況

区分	給料月額	期末手当支給割合	退職手当
市長	900,000円	3.50月分(6月期+12月期)	給与月額×係×在職年数
副市長	690,000円	20%加算措置あり	給与月額×係×在職年数
教育長	578,000円	4.40月分(6月期+12月期)	給与月額×係×在職年数

※市長、副市長、教育長の期末手当は、支給額から100分の30を減額

区分	給料月額	期末手当支給割合	退職手当
議長	553,000円	3.60月分(6月期+12月期)	支給規定なし
副議長	476,000円		
議員	437,000円		

※議員の報酬月額は、令和6年3月まで約100分の5を減額

特別会計

☎ 財政経営室 ☎ 63-7403

区分	歳入決算額	歳出決算額	実質収支額
住宅新築資金等貸付事業	990万円	950万円	41万円
東山墓園造成事業	4,624万円	4,337万円	287万円
国民健康保険	84億1,124万円	82億484万円	2億640万円
介護保険	78億3,003万円	75億4,396万円	2億8,607万円
後期高齢者医療	19億7,834万円	19億7,469万円	365万円
国津財産区	20万円	13万円	6万円
合計	182億7,594万円	177億7,649万円	4億9,945万円

企業会計

水道事業会計・下水道事業会計

☎ 上下水道部 経営総務室 ☎ 63-4114

▶水道事業会計は、水道ビジョンに基づく老朽施設の更新や、老朽管の耐震化などを推進。決算は、給水収益などの減収や水道施設の維持管理費などの増加により1億4,762万円の純損失となりました。

▶下水道事業会計は、5,049万円の純利益となりました。

区分(収益的収支)	収入額	支出額	差引額
水道事業	17億298万円	18億5,060万円	△1億4,762万円
下水道事業	25億3,627万円	24億8,578万円	5,049万円

病院事業会計

☎ 市立病院 総務企画室 ☎ 61-1100

延べ入院患者数は前年度より2,547人増加し51,018人。延べ外来患者数は前年度より3,389人減少し、70,743人でした。

新型コロナウイルス感染症患者の対応により給与費が増加したこととあわせて、原油価格などの高騰により経費が増加しましたが、新型コロナウイルス感染症の対応に対する国・県の補助の受け入れ、一般会計負担金が増加したことなどから4億5,251万円の純利益となりました。

区分	収入額	支出額	差引額
収益的収支	58億1,832万円	53億6,581万円	4億5,251万円

補足メモ 名張市の3つのおサイフ



名張市には3つのおサイフ(会計)があり、使い道によってどのおサイフから使うかが決まっています。

一般会計…教育や福祉、道路の整備など、行政の基本的な事業を実施していくための会計で、市の会計の中心となります。

特別会計…国民健康保険や介護保険、後期高齢者医療など、特定の収入と特定の支出を一般会計と区分して経理し、特定の事業や資金運用の状況を明確化させた会計です。

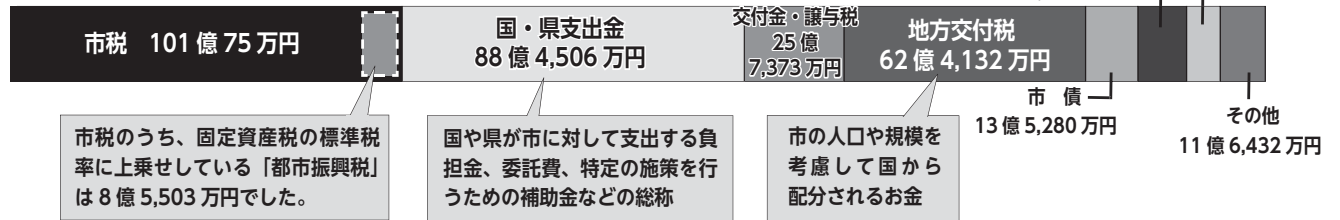
企業会計…特定の事業収入で事業をまかなう「独立採算」方式の会計です。名張市では、水道・下水道と病院の事業があります。

「財政非常事態宣言」解除後初となる 令和4年度決算 Q & A

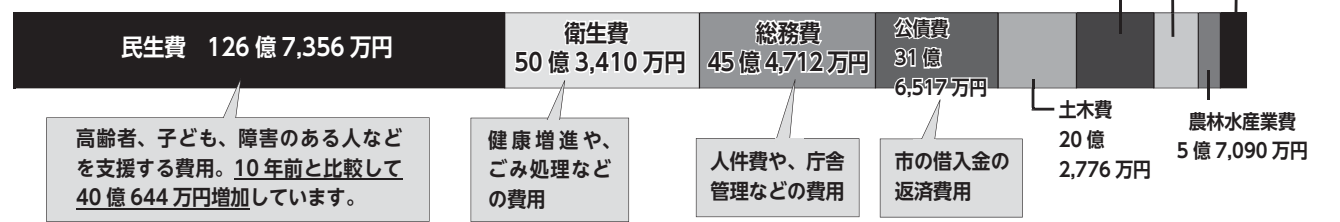
20年近く続いた「財政非常事態宣言」解除後初となる令和4年度の決算をご紹介します。 ☎ 財政経営室 ☎ 63-7403

一般会計

歳入 324億453万円



歳出 318億3,944万円



Q まずは、令和4年度の収支から説明してくれる?

A 5億6,509万円の黒字でした

令和4年度の歳入総額は324億453万円、歳出総額は318億3,944万円で、差引収支は5億6,509万円となり、黒字。このうち、翌年度に繰り越す財源を除いた実質収支額は5億3,613万円でした。

Q 歳入のうち「都市振興税」は本当に今年度で終わるの?

A 予定通り令和5年度で廃止します

平成28年度から固定資産税の標準税率に上乗せする「都市振興税」のご負担を、市民の皆さんにお願いしてきましたが、令和5年度で廃止します。この財源を活用して、市立病院の充実や下水道事業の推進など行政サービスの維持・向上と、「地域共生社会」の構築に取り組んできました。令和6年度以降も、新たな行政課題に対応していくために、引き続き、事務事業の見直しや財源確保など財政健全化に向けた取組を進めていきます。

Q 「財政非常事態宣言」が解除され、名張の財政はこれから良くなっていくの?

A 民生費の増加や施設の更新など、厳しい状況は続く

今後、高齢化による民生費などの増加、公共施設の老朽化に伴う更新も必要となる中で、物価高騰の影響を受け、厳しい状況は続きます。財政状況を判断する指標の一つに、財政の弾力性を示す「経常収支比率」があります。これは経常的な収入に占める経常的な経費に要する金額の割合です。この指標が小さいほど、財政にゆとりがあるといえ、令和4年度決算では99.2%でした。例年90%を超えており、硬直した状況が続いています。これは過去の借入金の返済が大きな負担となっていることなどが要因です。